



高等学校における「学びのUD」構築実践例①

熊本県立湧心館高等学校の取組

【本スライドの流れ】

- I 取組の計画
- II 取組の実際
- III 取組の振り返り

※本スライドでは、高等学校における「学びのユニバーサルデザイン」構築事業【令和元年度（2019年度）、令和2年度（2020年度）…熊本県教育庁県立学校教育局特別支援教育課】による取組を紹介します。

I 取組の計画



1 目的及び目標

【目的】

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善に取り組むことで、全ての生徒が「授業を理解できた。」という充実感を感じるとともに、お互いの多様な考えを認め合い、安心して学べる居心地の良い学級づくりを推進するため。

【目標】

- 1 ユニバーサルデザインの視点から授業をとらえ直し、学習の内容の本質を見極め、内容をフォーカスし、授業構成をシンプルにする。
- 2 これまでの授業の手法を見直し、教科の枠を超えて他教科の手法を参考にして自らの授業の改善につなげる。
- 3 私語をなくし、授業に集中できる環境づくりに努める。
- 4 生徒がお互いの良さや違いを認め合える関係づくりを目指す。

2 内容

取組 1

「学びのUD化」について、職員へ目的・目標の周知を行うとともに、研修を実施する。

取組 2

発達障がい等についての理解や対応の仕方を学ぶとともに、個を認め合う和やかな学級づくりの手法を学ぶ。

取組 3

I C T機器等を活用し、視覚的な効果により、授業改善を目指す。

※その他の計画（スケジュールや校内組織）は、別紙資料をご覧ください。

Ⅱ 取組の実際



取組Ⅰ

「学びのUD化」について、職員へ目的・目標の周知を行うとともに、研修を実施する。



「湧心館スタンダード」の作成

令和2年度の授業展開における『湧心館スタンダード』

湧心館高校全日制UD係
令和2年(2020年)4月

ユニバーサルデザインの授業展開

授業の準備

- わかりやすい教材・教具を活用する。(具体物・写真・ICTなど)
- 授業の流れや内容が分かり、学習内容を振り返ることができるように板書やワークシートの構成を工夫する。
- ワークシートや課題プリントは、読みやすく、書きやすいように工夫する。
(UDフォントやゴシック体を使用する・空欄に番号をつける・プリントにナンバーリングするなど)

授業に臨む姿勢

- チャイムで始め、チャイムで終わる。
- お互いに身だしなみを整え、授業開始のあいさつをする。
- 教科書・ノート・ワークシートなど、学習用具の準備について指導し、授業時は机や棚を整えて学習に向かう環境作りを行う。

授業の導入

- 毎時の授業で本時の目標(課題)と流れを示す。
(指示カードの活用 または ワークシートへの記入)

授業の展開

- すべきことがはっきりと分かるよう、指示を板書やワークシートに明示する。
(「書く」「考える」「話し合う」等のピクトグラムや指示カードの活用)
- 個別学習・ペア学習・グループ学習など、ねらいに応じて学習の形態を工夫する。
- 他者の考えを否定せず、疑問点を出し合い、学び合える雰囲気を作る。
- よい反応や考えを取り上げ、間違いや失敗は否定せず、いったん受け止め、次へとながら解決方法を生徒に考えさせる。

まとめ・振り返り

- 本時の目標に沿ったまとめを行う。
- 最後まで粘り強く問題に取り組んだり、友達と一緒に考えたりした姿を褒める。

「学びのUDアンケート」の作成

令和2年度(2020年度)6月
湧心館高校全日制UD係

「学びのユニバーサルデザイン」についてのアンケート(生徒用)

本校では、昨年度から県教育委員会より「学びのユニバーサルデザイン構築事業」の指定を受けています。裏面の湧心館スタンダードの定着状況を把握するためにアンケートを実施しますので、協力をお願いします。各質問項目に対して、下記の4段階で評価し、右側の評価欄に数字を記入して下さい。

あなたの所属 ()年()組	評価	4…はい、多い、当てはまる。 3…どちらかと言えば当てはまる。 2…どちらかと言えば当てはまらない。 1…いいえ、少ない、当てはまらない。
--------------------	----	--

質問	評価
1 授業開始までに余裕をもって移動・着席・教材の準備をする生徒が多いと思いますか。	
2 授業はチャイムで始め、チャイムで終わっていると思いますか。(体育の終了時を除く)	
3 授業開始時に生徒の身だしなみについて確認される生徒が多いと思いますか。	
4 授業開始・終了時の挨拶について、声の大きさや礼の仕方を重視されている先生が多いと思いますか。	
5 授業開始時に身だしなみが整っている生徒が多いと思いますか。	
6 授業開始・終了時に大きな声で礼儀正しく挨拶をしている生徒が多いと思いますか。	
7 授業開始時にその時間の目標と流れの説明をされる先生が多いと思いますか。	
8 (教室での授業で)指示をされる時、口頭(口で言う)だけでなく、黒板やワークシートなどを使い、指示内容を文字で示される先生が多いと思いますか。	
9 1時間の授業の中で、先生が説明されるだけでなく、個別学習の時間やグループワークの時間を設けられている授業が多いと思いますか。	
10 ワークシートや板書によって、1時間の授業の流れが分かり、学習内容を振り返ることができる授業が多いと思いますか。	
11 パワーポイント等で教科書やワークシートを映し出したり、実物や写真、動画を見せたりして、学習内容の理解を促す授業が多いと思いますか。	
12 パワーポイントや板書、ワークシートの文字が適切な大きさや色合いになっている授業が多いと思いますか。	
13 話し合いをしたり、発表したりしやすい雰囲気の良い授業が多いと思いますか。	
14 先生が説明をされている時に、静かに聞いている生徒が多いと思いますか。	
15 授業中の様々な活動に真面目に取り組んでいる生徒が多いと思いますか。	
16 授業の終わりに、内容の振り返り(感想記入や発表等)を行う授業が多いと思いますか。	
17 授業中の終わりに、その授業の目標に沿ったまとめをされる先生が多いと思いますか。	
18 授業中に頑張って取り組んだことを、ほめてくれる先生が多いと思いますか。	
19 「誰し安心して学べる学校づくり目標にとって分かりやすい授業づくりのためのアイデアがあったら教えてください。」	

質問は以上です。ありがとうございました◎

生徒用

令和2年度(2020年度)6月
湧心館高校全日制UD係

「学びのユニバーサルデザイン」についてのアンケート(職員用)

本校では、昨年度から県教育委員会より「学びのユニバーサルデザイン構築事業」の指定を受けています。裏面の湧心館スタンダードの定着状況を把握するためにアンケートを実施します。今回のアンケート調査(職員用・生徒用)により本校の成果や課題を把握し、8月28日(金)に予定している職員研修につなげたいと思いますので、ご協力をお願いします。表面は各質問に対して下記の4段階で評価し、右側の評価欄に数字を記入して下さい。裏面は記述での回答をお願いします。

評価	4…はい、多い、当てはまる。 3…どちらかと言えば当てはまる。 2…どちらかと言えば当てはまらない。 1…いいえ、少ない、当てはまらない。
----	--

質問	評価
1 授業開始までに余裕をもって移動・着席・教材の準備をする生徒が多いと思いますか。	
2 授業はチャイムで始め、チャイムで終わっていると思いますか。(体育の終了時を除く)	
3 授業開始時に生徒の身だしなみについて確認しますか。	
4 授業開始・終了時の挨拶について、声の大きさや礼の仕方を重視していますか。	
5 授業開始時に身だしなみが整っている生徒が多いと思いますか。	
6 授業開始・終了時に大きな声で礼儀正しく挨拶をしている生徒が多いと思いますか。	
7 授業開始時にその時間の目標と流れの説明をしていますか。	
8 (教室での授業で)口頭だけでなく、黒板やワークシートなどを使い、指示内容を文字で示していますか。	
9 1時間の授業の中で、説明するだけでなく、個別学習の時間やグループワークの時間を設けていますか。	
10 ワークシートや板書によって、1時間の授業の流れが分かり、学習内容を振り返ることができるようにしていますか。	
11 パワーポイント等で教科書やワークシートを映し出したり、実物や写真、動画を見せたりして、学習内容の理解を促していますか。	
12 パワーポイントや板書、ワークシートの文字が適切な大きさや色合いにするよう心掛けていますか。	
13 話し合いをしたり、発表したりしやすい雰囲気を作っていますか。	
14 先生が説明をしている時に、静かに聞いている生徒が多いと思いますか。	
15 授業中の様々な活動に真面目に取り組んでいる生徒が多いと思いますか。	
16 授業の終わりに、内容の振り返り(感想記入や発表等)を行っていますか。	
17 授業の終わりに、その授業の目標に沿ったまとめをしていますか。	
18 授業中に生徒が頑張って取り組んだことを、褒めていますか。	

裏面に続きます。

職員用

令和2年（2020年）8月 「学びのUD化」研修②

※アンケート調査結果をもとに、評価が低かった部分をテーマとした。

・グループワーク

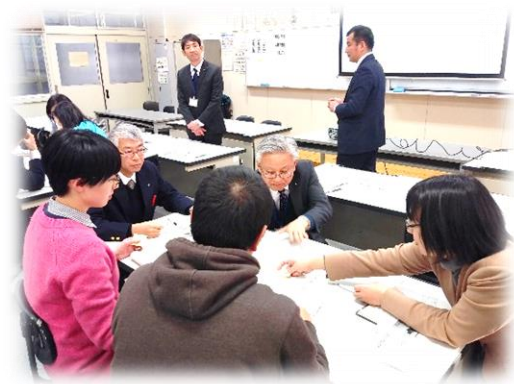
生徒が「ほめられた」「認められた」と感じ、自信や学習意欲を高めるために、職員全員で夏休み明けから取り組みたい（または実施に向けて努力したい）具体策を考える。

<input type="checkbox"/>	【提案】・・・夏休み明けからチャレンジしてみよう！
班	
【課題解決案】	【事前準備】 ※左の正方形の付箋に、「生徒たちが『ほめられた』『認められた』と感じ、自信や学習意欲を高めるようになる」ためのアイデアを（横書きで）あらかじめ書いておいて下さい。 ☆付箋1枚につき、1項目を書くことを原則とします。 ☆お一人に各5枚配ります。
【原因分析】	※左の長方形の付箋に、UDアンケートの質問18について、「なぜ生徒と職員の意識の差が大きいのか」、その原因として考えられることを（横長・横書きで）あらかじめ書いておいて下さい。



取組 2

発達障がい等についての理解や対応の仕方を学ぶとともに、個を認め合う和やかな学級づくりの手法を学ぶ。



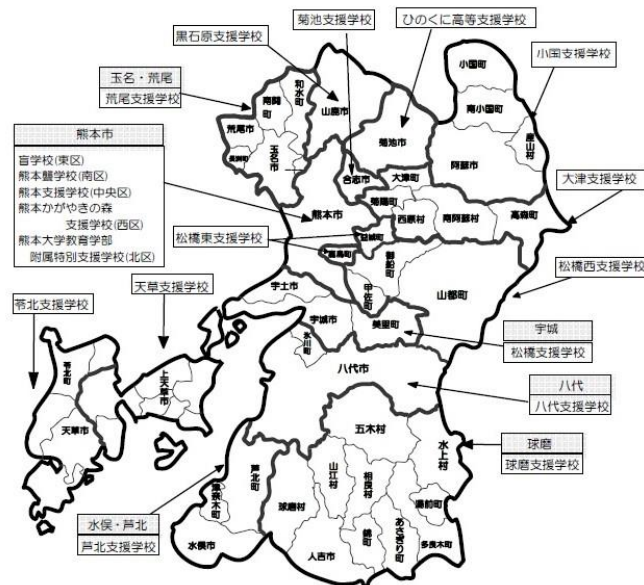
通年 特別支援学校による巡回相談の積極的な活用

※ケース会議や校内研修等において、特別支援学校の巡回相談員からの助言を受け、個別対応や授業の改善等に努めた。



県内特別支援学校の支援エリア

(1) 知的障がい・発達障がい



(2) 肢体不自由

特別支援学校	対象市町村等
熊本かがやきの森支援学校	荒尾・玉名・菊池・阿蘇・熊本市・山鹿市
松橋支援学校	宇城・八代
松橋東支援学校	上益城
芦北支援学校	水俣・芦北・球磨
天草支援学校	天草

(3) 全県下対象の障がい種

特別支援学校	障がい種
盲学校	視覚障がい
熊本聾学校	聴覚障がい
黒石原支援学校	病弱

取組 3

I C T 機器等を活用し、視覚的な効果により、授業改善を目指す。

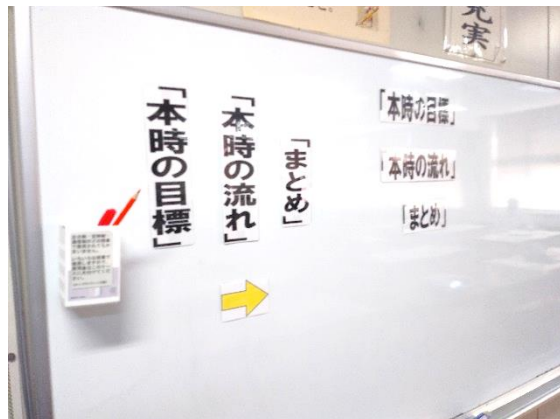


令和2年（2020年）10月 研究授業（物理）、合評会

※「湧心館スタンダード」をもとに、授業づくりの工夫を行った。

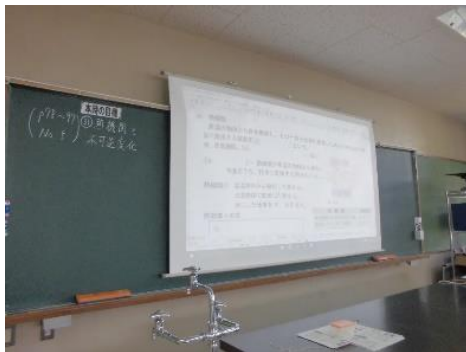
目標等の掲示（見える化）の工夫

授業の流れと目標を生徒に視覚的に示し、本日学ぶ授業を「見える化」する。

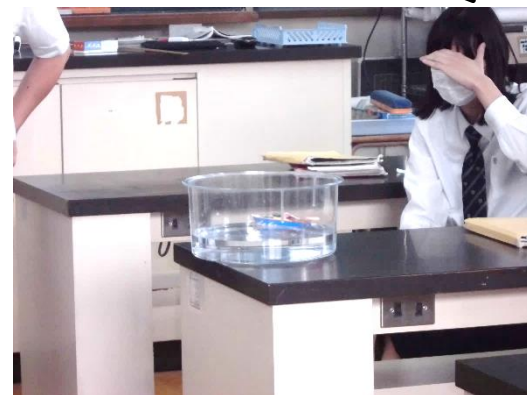


情報伝達（視覚化）の工夫

視覚的な情報（具体物・動画・写真）を活用し、分かりやすさや思考の深まりにつなげていく。



言葉による説明だけでなく、
具体物や動画があると分かり
やすい！



授業形態（共有化）の工夫

グループ活動の場面を取り入れ、生徒相互の学び合いによって、理解や考えの深まりを図る。



学び合って楽しい！
授業が分かる！

※教科と特別支援教育のスーパーティーチャーから助言を受け、授業改善に努めた。

【スーパーティーチャーの主な役割】

- 自校での公開授業や研究協議等を実施し、自校の教員だけでなく、他校の教員にもその技術や手法を伝え、情報共有を図る。
- 他校での授業視察や教科会等に参加し、スーパーティーチャーの指導技術を他校へ直接伝える。
- 自校、他校において、校内研修の企画・立案、若手教員への指導助言等を推進し、教科指導だけでなく教職員としての資質向上を図る。

等



Ⅲ 取組の振り返り

※学びのUDアンケート結果及び本事業まとめアンケートによる教職員の回答をもとに整理しています。

※回答者数：28人



教職員個人について



意識の変化

- ・ユニバーサルデザインと聞くと少し身構えていた部分があったが、研究授業や（特に）合評会での様々なアドバイスを聞き、小さなことから始められるのだということに気付き、何か取り組んでみようかと思えるようになった。
- ・生徒の困り感は何か、どうしたらそれを軽減できるか等を考えながら授業をするようになった。

生徒への対応の変化

- ・褒めることがなかなかできていなかったので、「褒める」「認める」ことを心掛けるようになった。
- ・「一方的に叱る」という形でなく、生徒のそれぞれが掲げた目標に向けて指導していき、生徒の良い部分を見つけることができるようになった。日々のストレスが少なくなり、心にゆとりみたいなものができた。

授業改善の取組

- ・生徒が見通しを立てて学べるように、授業の目標と流れを必ず示すようになった。
- ・生徒の実力に応じて学べるように、難易度に差をつけた課題を準備し、取り組ませるようになった。
- ・以前より生徒一人一人の反応に配慮するようになった。呼名や言葉掛けを注意するようになった。
- ・授業の構成やプリントのフォント・形式などにも気を遣うようになった。
- ・生徒の学習活動では、生徒が自主的に体験したり、疑問に思うことを伝え合ったり、人に教えたりする活動等を取り入れることによって、学びが深くなることを強く感じた。

教職員全体について



共通理解、共通実践の前進

- ・生徒と教師、それぞれにアンケートを取って詳しく分析されていた。その集計結果から、教師が思っている以上に生徒は褒められていないということに職員全体で気づくことができた。まずは、共通理解できたのがとても大きかったと思う。

全体の雰囲気の変化

- ・今まで以上に生徒についての情報交換が活発になった。各先生が様々な工夫をされているのが分かり、気軽に工夫、改善に取り組みやすい学校の雰囲気ができた。
- ・生徒を褒めることや認めることの必要性を感じる職員が増えたように思う。
- ・生徒の理解度や特性に応じた指導を行っていこうという雰囲気が増した気がする。

授業改善の取組

- ・生徒が見通しを立てて学べるように、授業の目標と流れを示す授業が学校全体で増えた。
- ・ワークシートやICTを活用するなど、工夫して授業をする先生が増えた。

生徒について



全体の雰囲気の変化

- ・分からないことを気軽に質問する雰囲気ができた。
- ・担当する授業の生徒はとても落ち着いて参加している。学校全体も落ち着いたように感じる。

授業の様子の変化

- ・生徒が時間に敏感に反応し、授業の開始がスムーズになった。
- ・時間の厳守、授業の準備が少しずつできるようになった。生徒の発言が多くなった。
- ・本時の目標を明確にすることにより授業に集中する生徒が増えつつある。
- ・褒めた後は、学習のモチベーションが上がっているように見える。
- ・褒められた後は少しずつではあるが、授業中に顔が上がったり、居眠りをする回数が減ったり、宿題をしてくるようになったり等の改善が見られた。
- ・課題問題をレベル1～3に分類し、生徒にどこまでできるか目標を立てさせ、達成できたら生徒を褒める…というもの。取組の結果、学力が厳しい生徒4人中3人が意欲的になったので、現在も取組は続けている。

生徒と教職員の人間関係の変化

- ・教師と生徒の間の人間関係が親密になったようである。また、生徒のおかれている背景を理解しながら指導するような協力体制が構築されつつあると感じている。
- ・「教師は怒るだけ」という生徒の先入観が払拭されて、「自分が学ぼうとする気持ちを支援してくれる」と感じているようである。

今後に向けて

- ・他教科の授業を参観することにより、自分の教科に置き換えて考えるようになった。より多くの授業実践事例を学びたい。
- ・教え合うことで生徒の自己肯定感が高まり、教えられる側の生徒も気軽に質問することができるだろうと思うので、「教え合いの時間」を設けたい。
- ・生徒の自己肯定感を高め、自己の成長に気付くことのできる評価の仕方について考えていきたい。
- ・グループワークで生徒が活動しないのは活動する仕掛けが足りないからだとの指摘はもっともだと思い、その点も考慮して活動させたい。
- ・まだあまり生徒の変化は見られないような気がするので、もっと授業内容の吟味や授業中の生徒への声掛けを行うようにしたい。

等

各種研修会や合評会等を通して、生徒へ寄り添う意識が職員全体で高まり、生徒の様子や授業づくりに関する情報交換もより活発になりました。教師からの言葉かけ等の工夫によるかわりの変化、表示カードやICT機器を活用した授業づくりの変化等が、生徒の「落ち着き」「学習意欲の向上」「教師への信頼や安心感の高まり」へとつながっています。



①家族や地域を支える「自立」した大人へ

②学ぶ姿勢を持ち続け「成長」していく大人へ



「生きる力」の育成のために、
すべての子供が安心して学べる
教育環境の整備を進めていきましょう。



BGM: MusMus

Kumamoto Prefectural Education Center